

荒尾競馬と関係する出来事（略年表）

年月	出来事
昭和 3 年 2 月	荒尾競馬で第 1 回の競馬開催
14 年 4 月	軍馬資源保護法の施行で鍛錬競馬競争を昭和 19 年まで実施
17 年 4 月	荒尾市制施行
昭和 23 年 5 月	自治法改正、新競馬法の公布
30 年 10 月	熊本県と荒尾市の協議により、一部事務組合「荒尾競馬組合」が発足
35 年 1 月	三井三池争議
38 年 11 月	三井三池三川坑炭じん爆発
46 年 6 月	第 1 スタンドが完成。
49 年 12 月	第 2 スタンド増設と管理棟が完成
53 年 4 月	開設 50 周年式典を実施
56 年 3 月	場内野球場が完成
平成 6 年 5 月	不祥事件のために開催を自粛し中止（5 月 28 日～6 月 5 日）
6 月	競馬法の規定に基づき開催停止（6 月 10 日～26 日）
7 年 10 月	JRA 場外発売所開設
8 年 9 月	三井三池炭鉱四山坑発破解体
9 年 3 月	三井三池炭鉱閉山
10 年 11 月	広域場間場外発売開始
12 年 6 月	「九州競馬」発足（荒尾、佐賀、中津）
12 月	牧野孝光騎手、2,000 勝達成
13 年 3 月	中津競馬最終開催
4 月	荒尾・佐賀・岩手競馬で姉妹提携
14 年 7 月	尾林幸彦騎手、2,000 勝達成
15 年 11 月	キサスキサスキサス号、24 連勝達成
16 年 10 月	第 1 回全日本レディース招待競争開催 岩永千明騎手が総合優勝
18 年 4 月	インターネットで動画配信開始
19 年 4 月	ニューウェーブ大崎（場外発売所）を開設
20 年 1 月	冬期交流レースの実施
12 月	岩手競馬から 50 頭来場 冬期交流レースの実施
21 年 2 月	北海道競馬から 31 頭来場 薬物陽性馬発生、検査結果の判明まで出走を自粛
2 月	競馬組合が「荒尾競馬自主短期経営健全化計画」（H 21～23）を策定
5 月	市が荒尾競馬あり方検討会設置
6 月	競馬組合が荒尾競馬活性化委員会設置
8 月	あらお荒炎祭、競馬場で開催
10 月	あり方検討会による「荒尾競馬の活性化、経営改善及び今後のあり方に関する提言」答申
22 年 5 月	万田坑グランドオープン
6 月	BAOO 天文館（場外発売所）開設
7 月	荒尾競馬オフィシャルブログ開設
8 月	あらお荒炎祭、2 度目の競馬場開催
23 年 2 月	競馬に地方公営企業法の一部適用
9 月	荒尾競馬廃止の方針を表明
12 月	荒尾競馬最終開催（23 日）
24 年 3 月	荒尾競馬組合解散

炭鉱と競馬 共に紡いだ荒尾の歴史



荒尾競馬は、荒尾がまだ荒尾町だった昭和 2（1927）年 11 月に競馬施行認可を受け、翌年 2 月、1 回目の競馬を行いました。発起人は地元有志 7 人。荒尾競馬は万田駅（現荒尾駅）から近いために交通の便が良く、地理的に九州の中心にあるという好条件から、まちがにぎわい、発展することが期待されていました。競馬が荒尾で長い歴史を刻んでいきました。その中で、競馬や市を取り巻く社会情勢は刻々と変化し、大

きな転機を迎えます。それはバブル経済の崩壊と、平成 9 年の三井三池炭鉱の閉山です。荒尾は明治から平成まで、基幹産業であった炭鉱と共に寄り添い、発展してきたまちです。炭鉱マンの娯楽の場としても存在感を放った荒尾競馬は、不況とエネルギー政策の転換という社会の変化によって、大きな打撃を受けました。炭鉱と競馬の歴史は、今の荒尾市にとって大切な礎といえます。

荒尾といえば「荒尾競馬」。長きにわたって荒尾市のシンボルとして、市内外で親しまれた荒尾競馬が、昨年 12 月、長い歴史に幕を下ろしました。

荒尾競馬の歴史は、今月 1 日に市制施行 70 周年を迎えた本市の歴史よりも長く、私たちの市民生活に溶け込み、支えていたものです。

だからこそ荒尾競馬の存在は、廃止となったこれからも、荒尾市を構成する要素であり続けることに違いはありません。

84 年もの間、人々にたくさんの「夢」を与えてきた荒尾競馬。しかし同時に、荒尾市に乗り越えていくべき課題も残しました。

この 70 年間、荒尾市をかたちづけてきた要素の一つである競馬が残したものの―それを正面から見つめるとき、未来に輝く荒尾の「夢」に必要なものが見えてくるのではないのでしょうか。

夢をつないでできた 70 年を礎に、さらに未来にはばたくために―。

荒尾競馬と、これからの荒尾を考えます。

競馬事業の廃止

ここから未来に

踏み出すために

つないでいく
「夢」の物語

「競馬廃止」とその背景

―苦渋の決断と競馬経営の状況

競馬廃止―時代と背景

競馬の廃止という決断は、約13億6千万円という累積赤字を抱え、経営改善に将来的な見通しが立たないことで、市財政への負担が心配され、下されたものです。

荒尾競馬は、昭和3年の施行から数度の競馬関係の法改正を経て、昭和30年10月、熊本県と荒尾市による一部事務組合「荒尾競馬組合」を発足し、事業を行ってきました。

経営は、三井三池争議が起こった昭和30年代初頭の低迷期を乗り越え、高度経済成長を背景に売得金^{ばいどくぎん}も入場者も増加して波に乗りました。しかしバブル経済が崩壊、平成4年に売得金・入場者数がピークを迎えた後は、景気の低迷で売上は急落。平成9年の三井三池炭鉱の閉山を境に、さらに落ち込みました。閉山で荒尾・大牟田の人口

※ 競馬用語で勝馬投票券の発売金から返還金を引いたもの。

が減りにぎわいが薄れると、一層厳しい経営状況が続くようになりました。また時代と共に、仕事やライフスタイルも変わりました。レジャーやギャンブルが多様になったこと、若い世代のギャンブル離れも一因です。

未来を見据えて―市の決断

そのような中、競馬は客層拡大と集客増を目指し、イベントの充実や中津競馬、佐賀競馬と共に「九州競馬」の開催など、魅力ある競馬場運営に取り組みました。また、職員数の削減や委託業務を一括して行うことで経費を削減、平成19年に鹿児島県曾於郡大崎町に場外発売所を設置、売り上げの拡大を図るなどの経営努力も行いました。

しかし売上の減少に歯止めがかからず、平成21年度までに11年連続の赤字を計上。経営が悪化すると、さらなる経

費削減をするために開催日数などを減らし、経費を減額したことで、所属する馬の数も減りました。レースの番組編成が難しくなると云う、悪循環に陥っていました。

平成21年、市は有識者による「荒尾競馬あり方検討会」を設置し、競馬の今後について議論を行いました。同年10月、同会は市長に競馬の存廃は「平成21年度～23年度の収支状況と将来の見通しをもって判断することが妥当」という答申を行いました。競馬組合も「荒尾競馬活性化委員会」を設置して独自の経営改善策のもとで努力を重ねました。

平成22年度、年度の途中で行った出走手当の減額により、単年での度黒字を達成することができましたが、限界まで行った経営努力を今後も続け、安定した黒字経営を行うことは困難と判断し、廃止を決断したのです。



▲昭和50年代前半のレースと満員のスタンド

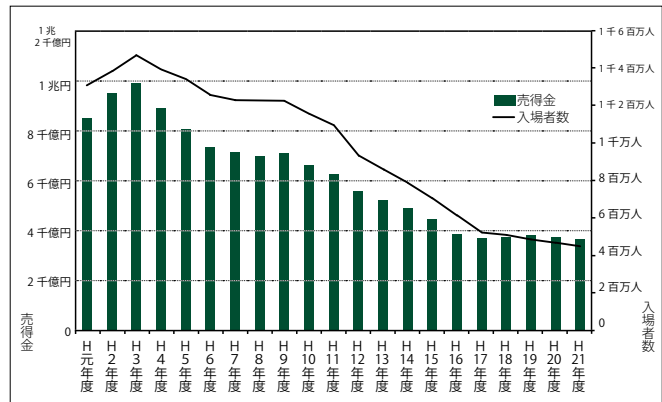


苦悩する全国の地方競馬

日本の競馬場 分布図
■地方競馬 16場
◆地方・中央共用競馬場 2場
□中央競馬場 8場



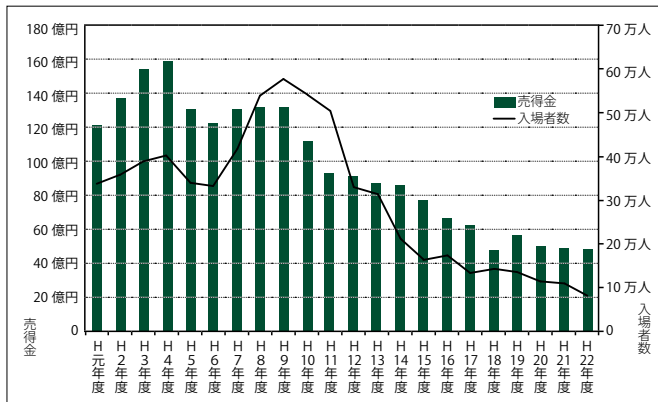
地方競馬 売得金と入場者数の推移（年度別）



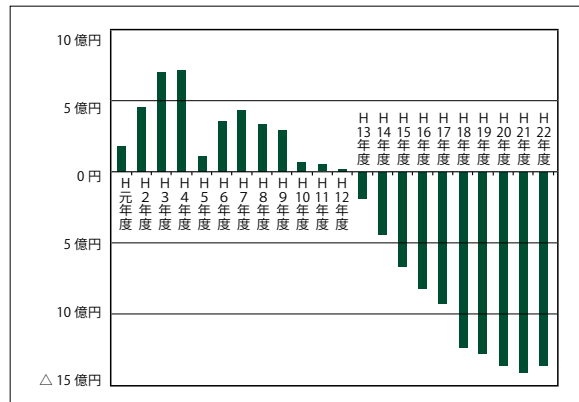
平成元年以降廃止になった地方競馬場

競馬場	都道府県	主催者	最終開催日
函館	北海道	北海道	平成 3年 3月 22日
中津	大分	中津競馬組合	平成 13年 3月 12日
三条	新潟	新潟競馬組合	平成 13年 8月 16日
新潟	新潟	新潟競馬組合	平成 14年 1月 4日
益田	島根	益田市	平成 14年 8月 16日
足利	栃木	足利市	平成 15年 3月 3日
上山	山形	上山市	平成 15年 11月 11日
高崎	群馬	群馬県競馬組合	平成 16年 12月 31日
宇都宮	栃木	栃木県	平成 17年 3月 14日
岩見沢	北海道	北海道	平成 9年 11月 27日
		北海道市営競馬組合(ばんえい)	平成 18年 10月 2日
北見	北海道	北海道市営競馬組合(ばんえい)	平成 18年 11月 27日
		北海道市営競馬組合(ばんえい)	平成 18年 6月 12日
旭川	北海道	北海道	平成 20年 10月 16日

荒尾競馬 売得金と入場者数の推移



荒尾競馬 収支決算の推移





ごとう・ひさお 昭和9年生まれ、新生区在住。昭和48年10月～平成6年3月、荒尾競馬組合事務局に勤務。平成4年からは事務局長を務めた。

荒尾競馬組合に長年勤めた後藤久雄さんは、雇用の場としての競馬を語りました。

私が競馬事務局にいたときは、荒尾競馬での1日当たり、開催1回当たり、1レース当たりの売上のレコードが出た時代で、大変なにぎわいでした。ですから、多い時で競走馬が6百頭以上いたと記憶しています。調教師、厩務員、騎手も大変多かったです。

何より、勝馬投票券を売る女性だけでもやはり6百人くらい働いていました。女性は地域の主婦の人たちが多かったように思います。

昭和50年頃からは競馬場もどんどんコンピューター化が進み、オッズや販売機の導入など、施設設備にも費用を掛けました。

市営バスを借りて、熊本市内や福岡からお客さんを無料で送迎していたことも覚えています。荒尾の地域経済の活性化に大変貢献したと思います。廃止してしまいましたが、荒尾競馬は荒尾市にとって、地域に貢献してきた重要な産業だったと思います。

地域の雇用を創り出した競馬は女性の働く場としても貢献

元荒尾競馬組合事務局長 後藤久雄さん

市内一円の道路整備	福祉村の建設整備
市内一円の道路側溝整備	公営住宅の建設整備
し尿処理・ごみ処理施設の整備	公共下水道建設整備
給食センター施設整備	幼稚園就園奨励事業
小中学校の新築・増改築	高齢者・母子家庭医療費費助成
小中学校の体育館整備	失業者対策事業
小中学校のプール建設	畜産・水産業の振興事業
運動公園施設の整備	災害復旧事業

競馬事業の収益による主な建設事業や政策



小岱作業所（福祉村内）



給食センター



学校（写真は中央小学校）

競馬が荒尾に残したものの

市制施行より長い84年の歴史を刻んだ荒尾競馬。

その営みは、荒尾に何を残したのでしょうか。

競馬が作った荒尾のカタチ

競馬事業とは、刑法の例外として地方自治体に認められた収益事業です。事業目的は地方公共団体の財政・畜産の振興に寄与することと、国民に健全なレジャーを提供することとされています。

荒尾競馬は ▼平成10年度までに荒尾市におよそ87億5千万円、熊本県におよそ3億8千万円の収益金を配分 ▼開催や施設管理などで地域に年間およそ10億円の経済効果とおよそ6百人の雇用を創出 ▼地方競馬全国協会を通じて通算でおよそ40億円の畜産振興へ寄与するなど、収益金を通じて荒尾市の財政を支え、県や国の畜産振興の一端を担ってきました。

特に市では、平成10年度までに収められた収益金を、市内の公共施設の建設整備や社会福祉充実のための事業に充ててきました。

その多くは現在の市民生活を今も支えています。また、高齢者医療や母子家庭医療の無料制度を実施した

時期もありました。

福祉施設、教育施設、ライフラインー現在の荒尾市に住む私たちの生活の基礎を築いている施設は、競馬事業による収益金を活用して作ったものなのです。

「夢」という競馬の遺産

競馬はレジャーであると同時にギャンブルです。訪れる人には、人馬が一体となつてより速く駆ける姿にロマンを求めた人も、スリルや興奮、幸運を求めた人もいたでしょう。

「夢」を求めて集まる人で荒尾ににぎわいを生んだ競馬は、訪れる人の心に「夢」を残し、まちと住む人には未来に「夢」を紡ぐことができる住みよいまちの礎を残しました。

私たちは荒尾に住んで、より良いまちにすることで私たち自身の生活を「夢」のあるものに変え、将来を担う子どもたちに「夢」にあふれた未来を贈りたいと願いながら生活しています。荒尾で暮らしながら紡ぐ「夢」ーこれが競馬が残してくれた貴重な遺産なのです

人々の心に残る思い出という名の「夢」



内田幹夫さん（佐賀市）

18年程前に友人と来たのがきっかけで、よく荒尾に来ました。ギャンブルというより、賭けた馬が頑張ってくれるのが楽しかったです。荒尾競馬は馬が身近に感じられて好きでした。



貞刈伸二さん、園田孝義さん（ともに大川市）

佐賀競馬と日程がずれていて来やすく、海と近い立地が良かったとお2人は話しました。園田さんは「当たらない思い出ばかりです」、貞刈さんは「2回は当たったなあ」と振り返りました。



野田真さん（福岡市）

荒尾には、年に何回か来ていました。特別観覧席から海が見える他場では見られない景色が印象的でした。ラーメンがおいしかったです。廃止はとても残念に思いますが、仕方ないですね。



野口武晴さん（東京都）、高木慎典さん（神奈川県）

2人で全国の競馬場巡りをしていて、廃止を知って来場。野口さん「競馬もですが、九州の食べ物が印象に残っています」高木さん「荒尾のコースのコーナーの独特のふくらみが好きでした」

昨年12月23日の荒尾競馬最終開催日、来場者に荒尾競馬への思い出を聞きました。



あらい・かつひこ 昭和18年生まれ、熊本市在住。熊本学園大学経済学部教授。第5次荒尾市総合計画審議会会長も務める。荒尾のまちづくりに、平成4年の第3次総合計画から参加。

荒尾競馬場の広大な跡地を、第5次荒尾市総合計画が目指す「しあわせ優都あらお」の実現のために、荒尾の次の「夢」を育む場所として、活用方法を議論し始めています。これからの荒尾にしあわせをもたらす活用方法とは一。荒尾競馬場跡地活用検討委員会会長の荒井勝彦さんに話を聞きました。

住みよいまちと評価された荒尾を念頭に 暮らしやすさをさらに高める活用を

荒尾競馬場跡地活用検討委員会会長
荒井勝彦さん

荒尾市はこの4月、市制施行70周年を迎えました。人と言えば古希を迎えることになりませんが、歴史の中で大きな出来事です。

荒尾市は、かつての炭鉱のまちから再生し、新しく動き始めます。昨年12月の第5次荒尾市総合計画基本構想の答申に続き、前期基本計画を3月20日に行いましたが、荒尾市が重点的に取り組む事業である「有明優都戦略」の中で、健康、子育て、産業、観光、暮らしを充実させていく決意を新たにしたところだと思います。

荒尾競馬の歴史は84年ととても長く、多くの人に愛されました。市民と歩んできた競馬を閉じるというのは、荒尾から一つ光が消えたのと同じことだと思います。ここで新しい光をともして輝き始めるために、跡地をどのように活用

するかがとても大切なことです。

今、市民の代表と有識者による競馬場跡地活用検討委員会で、跡地の活用方法についてのアイデアを出しているところです。まだ方向性は十分決まっていますが、福祉分野、産業分野、教育分野などさまざまな方向性を検討していて、荒尾の再生のためにどのように活用していくのかを議論しています。

荒尾市は、住みよいまちであるという評価を市民の皆さんから受けていますので、それを念頭に置き、福岡市や熊本市と近い地理的利点も生かせる活用法を考えていきます。

今ある荒尾の暮らしやすさをさらに高める活用方法を探り、夏頃には中間報告を、冬には市長へ提言を行う予定です。

▶荒尾競馬場跡地活用検討委員会

学識経験者、経済団体、市民団体、行政職員などによって構成される委員会。競馬跡地の利用方法を検討しています。平成24年1月に発足し、これまで2回開催。今後は年末までに5回～6回の会議を行う予定です。



再就職、事業の清算、跡地活用…夢と共に残る課題

それでも未来へ走り続けるために――

競馬の遺産を全て引き継ぐ

競馬の廃止に当たり、市では競馬場関係者に対し、協力見舞金の支払いや、競馬事業に従事した人の再就職に取り組んでいます。

協力見舞金については、1月18日付けで交渉を終え、支払いを始めました（総額およそ4億1千万円、12月・1月の補正予算に計上）。従事者の再就職は、102人中21人が決定していないため、引き続き支援を続けます。

今後は競馬事業の清算を行っていきます。競馬組合の土地・建物と債権、債務を荒尾市が継承し、清算に必要な費用を負担します。

債務については、3月末現在でおよそ17億7千6百万円を見込んでいます。これを10年で返済する「第三セクター等改革推進債」（三セク債）[※]の起債と、3億円程度を見込む清算剰余金[※]、財政調整基金（市の一般財政の預金）から1億1千6百万円を投じて返済する予定です。そのため、本年度の一般会計当初予算に、歳出として三セク債の

償還金[※]1億5千8百60万円を盛り込んでいます。

また土地・建物を引き継ぐに当たり、競馬場内の民間所有地の土地借り上げ料・施設管理費を4千万円を別に計上しました。

さらに荒尾競馬廃止に合わせて大崎場外発売所が閉鎖されるため、和解金2千万円を支払うことで合意しました。

次の夢につながるために

競馬の遺産を全て引き継ぐ私たちには、事業の清算という大きな課題も残されています。しかし同時に、競馬場の跡地活用という夢ある課題も手にしています。

競馬場跡地は江戸時代に干拓で整備された土地で、およそ26ヘクタールに上ります。跡地を夢ある荒尾の未来に生かすために、市では市民代表を含む委員9人による「競馬場跡地活用検討委員会」で議論を始めました。

競馬によって礎を築いた荒尾は、その跡地を活用すること、さらなる夢へ一歩を踏み出していきます。

競馬事業廃止で荒尾市が引き継ぐ債務

累積赤字	およそ13億6千万円
地方競馬全国協会からの借入金	2億円
JAたまなからの借入金	4億円
システムリース債務	およそ7600万円

- ※1 経営状況が悪化した第三セクターなどについて廃止や清算をする場合、国が地方自治体に発行を認める地方債。負債を早期に処理し、地方財政の健全化を進めるのが狙い。返済期間は基本が10年。
- ※2 債務を返済した後で残るお金のこと。
- ※3 金銭債務を返却するお金。

平成23年12月23日。年末の冷え込み厳しいこの日、荒尾競馬場は熱気に包まれました。

荒尾競馬が長い歴史に幕を下ろす瞬間を目に焼き付けようと、競馬ファンや市民が訪れ、最盛期を偲ばせるにぎわいが戻りました。

潮風と大きな声援、明るい日差しを受けながら、人馬一体となって進む先を見据えて砂を蹴り上げ、駆け抜けていく。人と馬が共に走る。公正な競技のための関係者のたゆまない努力。馬へ注ぐ愛。躍動する人馬へ賭ける夢。それらがあつて成り立つ研ぎ澄まされ生き生きとした競馬の魅力が、そこにありました。

84年前、まちを発展させたいと願った住民の熱烈な誘致活動が実って設置された荒尾競馬は、多くの人の「夢」を乗せて歴史を駆け抜け、幕を下ろしました。

まちをより良くしたいという願いは、競馬が物語を閉じる今昔も変わらず私たちの中に息づくものです。それは競馬と共に育み、受

競馬と共に育んできた 夢を紡ぐ荒尾の「血統」。 思いが物語をさらにつないでいく

け継いできた夢を紡ぐ「血統」とも呼べるもので、古里・荒尾に対する強い思いなのです。

「荒尾といえば競馬」というイメージから脱し、「競馬のない荒尾」という新しいかたちで踏み出していくこの4月は、競馬と共に育んできたまちづくりへの熱き血潮を引き継いで、新しい荒尾の「夢」の物語を紡ぎ始める節目となります。

市民と行政が丸となって創る荒尾の物語は、84年前と同じように、有明海の潮風香る競馬場跡から再び始まっていくでしょう。

夢が駆け抜けた広い大地を決して「夢の跡」にしないうー住みよく幸せな荒尾の新しい「夢つなぐ物語」を、荒尾に住む私たちの手でしっかりと未来へ紡いでいくーその一步を踏み出す時は、これからののです。

協働のまちづくりで 作り上げる しあわせ優都あらお そのために踏み出す 一步

競馬廃止という、未来の荒尾を見据えた苦渋の決断。これから競馬の歴史を踏まえて、どのような荒尾を目指していくのでしょうか。

キーワードは「協働」。元気な荒尾は、私たちの手から始まります。



荒尾市長
(元荒尾競馬事業管理者)
前畑 淳治

本市はこの4月、市制施行70周年を迎えました。時を同じくして荒尾競馬を廃止しなくてはならなかったことは、まことに断腸の思いです。しかし、将来の荒尾のことを思い、廃止を決断しました。関係者や市民の皆さんには、ご理解をいただきたく思います。

また、長い歴史を刻んできた荒尾競馬は、およそ84年の間荒尾市の地域活性化に寄与し、荒尾市の雇用の創出や経済への波及効果は計り知れないものがありました。荒尾の発展に貢献した競馬に携わってこられた関係者にあらためて敬意を表し、関係者皆さんの再就職を最後まで支援してまいります。

今後競馬については、残されている貴重な資料を活用し、荒尾の地に馬事文化が栄えたことを後世に伝え、長く荒尾市民の誇りとして実感できるような事業を実施できるように整備していきたいと考えているところです。

次に、26ヘクタールという競馬場の跡地をどのように活用するかということです。荒尾の将来のためにどのような活用がいいのか、荒尾競馬場跡地検討委員会の皆さんに、さまざまな角度から議論を重ねていただいています。

同時に、荒尾市の産業の活性化を目指して企業誘致活動にも力を入れると共に、有明海沿岸道路の延伸などの要望活動も続けるなど、荒尾市の発展を促す施策を進めていきます。競馬場のある地域や県境地域だけでなく、荒尾市全体の活性化のために緊急の課題だと考えています。

荒尾市は本年度、さらなる飛躍のための一步を踏み出します。市制施行70周年を迎えるこの年に、これまでの荒尾をさらに発展させる第5次荒尾市総合計画のもとでまちづくりを進めていきます。本市のまちづくりの原点は、市民と行政が対等な立場で手を取り合う「協働」です。

市政運営の課題はいくつも残されていますが、荒尾市の歴史と文化という土台を踏まえ、荒尾にしかない地域資源を大切に、市民の皆様とともに、一步一步先を見据えて頑張っていきたいと思っています。

長い競馬の歴史の中で、多くの人が競馬に従事し、荒尾市のために尽力してくださいました。そのご労苦に報い応える意味でも、荒尾市民が誇りを持ち、70年間つないできた夢をさらにつなぎ、住みよい夢あるまち・しあわせ優都あらおを、皆様と共に築く決意を新たにしています。



平成24年12月23日 第9レース。多くのファンに見守られたラストラン。